



昭和十年一月十五日發行 (毎月十五日發行)

座口金

東京 二六二一八番 (櫻蔭共済會)

編輯兼發行所 向笠 廣三郎
東京市神田區龍旗町三丁目十二番地
印刷所 青田 祐
電話 下谷五七番
廣業館

櫻蔭會報

號一十八百第

謹賀新年

會員皆様方の心身の御健全を祈り非常時に際し愈々女子教育のために御奮闘あらんことを希ふ

昭和十年一月一日

社團 櫻蔭會
法人

謹賀新年

昭和十年一月一日

社團 櫻蔭共済會
財團 櫻蔭高等女學校
法人

年の始めに思ふことを

鷺尾 幾子
初日かけがよふ空よ青きそらわれらがねがひ高ひかるかも
老い若き手をとりあひてのぞむことこの新しになすよしもがな
をさなごのともとなりてこのとしは清く正しく生きんとぞ思ふ

新年の辭

一九三五年が来た。國際危機であると目せられた年が来たのである。我が國は滿洲國獨立の問題に關聯して國際聯盟を脱退した。その脱退効果が愈々今年三月に至つて發生せんとするのである。我が國は又ワシントン條約廢棄の通告を完了した。該條約は明一九三六年末日限り失効するのであるが、敢然比率主義の羈絆を脱し

た我に對つて世界軍縮の情勢は如何なる風雲を呼ぶであらうか。孤立を標榜せる我が國にとつて、一九三五年は正に國際危機を孕んだ年であると云へよう。

併しながら我が國は平和を愛するが爲の光輝ある孤立である。聯盟脱退は東洋の平和を希つての所爲であり、條約廢棄は世界の平和を欲しての措置である。しかも、猶國難來らんか、我には正義がある、赤心がある、日本魂がある正義よく國難を防ぎ、赤心よく國際危機を乗り越えるであらう。正義の輝く所、世界何れの所か暗雲の漂ふ地があらう。赤心の迷る所萬國何れの國か胸襟を開かないものがあらう。

齊しく日星の下に生れ、同じ大地の上に生存する人間同士である。世界何れの國民も互に人類の福祉を希ひ世界の平和を欲する心に變りはあるまいと思はれる。殊に人類の母である婦人が産みの子の生きる世の平和を祈る心には切なるものがあるのである。吾等日本婦人は各國の婦人と相提携して世界平和の保持に努めたいものである。

翻つて年頭吾等は櫻蔭會の任務を想ふものである。本會は言ふまでもなく我が國最高學府に於て教育者たる學力と品性とを練磨した婦人を以て組織せられた有數なる婦人團體である。即ち去年開校六十の意義ある式典を擧げた東京女子高等師範學校を背後に持ち、婦女の一般任務の外に特に我が國教育の重任に當つて力を盡しつゝある四千の會員を擁する女子教育者の有力なる婦人團體である。本會は曩に櫻蔭高等女學校を設立し、女子體育場を設置し、中等學校女教員會を創設した。その他各種の教育事業、各方面の社會事業に力を致したのであるが、特に近年は女子師範大學設置のために、公明なる主張を堅持して奮闘を続け、目的の貫徹に邁進して來たのである。本會が今日までに結んだ美果は尠からぬものがあるのである。

而して今年、本會が殊に意を用ふべき方面の一つが、やはり女子師範大學設置の目的貫徹に在るは勿論であるが、他の一つとして本會の内部的充實、會員各自の任務に自覺したる教育活動に計るべきことの重要なことを痛感するのである。即ち本會は

第一に會員各自の内に透徹せる教育精神の横溢せんことを期せねばならぬ。人を生かし、世を濟ふものは透徹せる教育精神である。昨年諸種の災害の頻發に際し、飢寒を癒す一時的救済の彼方に、罹災者の心魂の叫びを聞いた者は、眞の救済が那邊にあるかを考へずにはゐられなかつたであらう。或は農村救済、或は政界浄化何れもその根本をなすものが透徹せる教育精神に在ることは論を俟たないのである。外交も國防も之を全うせしむる所以の淵源は亦此の精神の充溢を以て他にはないのである。

會告 (その一)

◆新年會御案内

昭和十年の新年懇親會を左記要項により開催致します。多數の御來會を御待ち申上げます。

- 日時 一月十九日(土)午後一時半より
- 一會場 櫻蔭會館(市電大塚窪町下車)
- 一會費 金五拾錢也(當日御持参のこと)
- 一講演 徳富蘇峰先生(題未定、正二時より)

第三に本會は會員が働ける人であり、役に立つ人であり、人の中の人、教育者の中の教育者たらんことを望むのである。人溢れて職無く、就職難は常に若人の心に呵責の答となつてゐる併しながら一歩退いて考ふれば、人多しと雖もまことの人は殆ど稀であるといふ感がある。働くことを生命とし、學んで教へ、教へて楽しみ頭も手も口も人の二倍の活動を心掛けて、怒らず高ぶらず、行く所を己が住處とし、觸るゝ人の子を我が教へ子として倦まず倦まぬ底の教育者が如何に求めて得がたきを嘆ぜられてゐるか。希くは我が櫻蔭會はかかる會員を以て充満せしめたいものである。(水谷年恵)

會告 (その二)

◆母校開校六十年記念號發刊
母校の開校六十年を記念致しますため記念號を編纂致しました。菊版百六十三頁記念寫眞十五面のもので舊臘二十五日に會員御一同への發送を了りました。若し未着の向が御座いましたら至急御申出下さいませ。

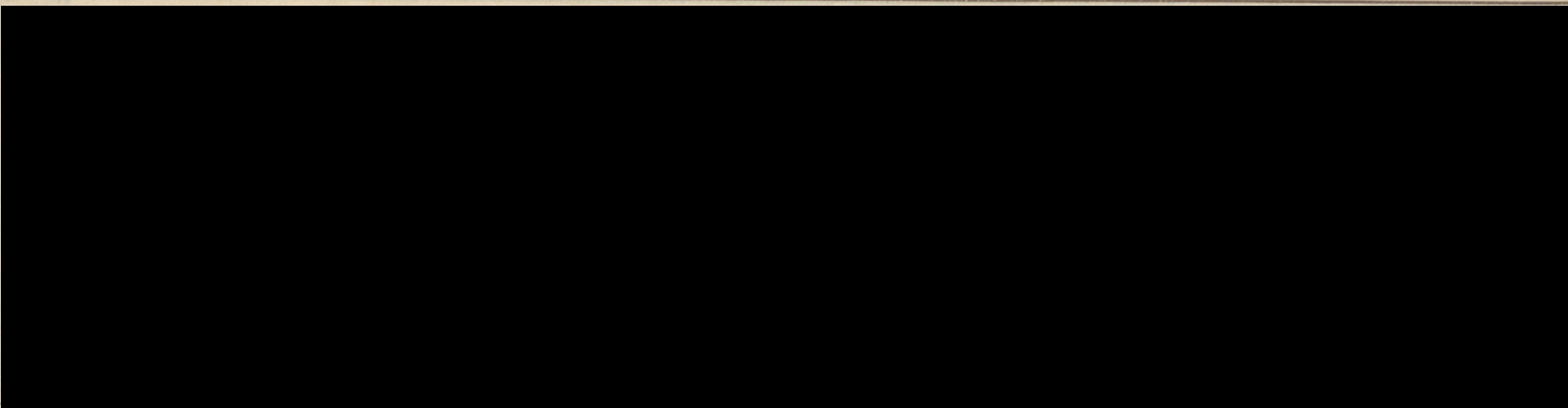
會告 (その三)

◆委納壁畫複製を御手許へ
曩に本會が奉納致しました明治神宮外苑聖徳記念繪畫館壁畫「女子師範學校行啓」(矢澤政月畫伯揮毫)の複製を會員御一同にお頒ち致しました。母校六十周年祝賀式に御參列の方々には其節差上げ、其他の方々にはお送り申上げました。未だお受取になりませぬお方は至急御申出下さいませ。又重複して御手許へ二枚届きました分はお手数ですが一枚を御返送下さいませやう御願ひ申上げます。

目次

- 一、會告 (一・二・三).....
- 一、新年祝詞.....
- 一、新年の歌.....
- 一、新年の辭.....
- 一、年賀を寄せられたる客員並會員.....
- 一、役員會記事.....
- 一、役員慰勞會.....
- 一、會計報告.....
- 一、岡山支部規約.....
- 一、會員異動.....
- 一、櫻蔭共済會彙報.....
- 一、櫻蔭高等女學校彙報.....
- 一、東京女子高等師範學校彙報.....
- 一、教育教授の研究.....
- 一、教授の經驗.....
- 一、更生家事教育.....
- 一、母校六十周年に因む集り.....
- 一、地方會員と會して.....
- 一、母校を祝賀する記念攝影.....
- 一、記念式後の記念.....
- 一、母校開校六十年と共に四三會二十五.....
- 一、年をむかへて.....
- 一、詩想.....
- 一、墨堤.....
- 一、吉田 二葉.....
- 一、六.....

年賀を寄せられたる
客員並に會員 (順不同)



役員會記事

主事會

昭和九年十一月十二日午後五時

一、報告
東京朝日新聞社より關西風水害義金の感謝状來る。

二、協議
1. 母校開校六十周年記念事業につき
2. 記念號發刊につき
(記念號を發刊すれば會報印刷費が不足することとなる故、豫備費より二百圓支出すること)
3. 六十周年記念祝賀會の費用非常に嵩み(會員が豫想以上多數出席したるため)たる様子會として、其儘に忍びざる故千圓丈け寄附するの件
4. 東北地凶作救済について東北振興會へ百圓寄附すること
5. 鳥飼とし子氏(新京在)御夫婦共御病氣の御見舞金として拾圓贈ること

6. 中澤りく氏火災についての内容を調査すること
7. 山崎、堺兩氏に對して謝禮するの件
8. 明治十二年卒業の中村萬壽榮、森田千世子氏廿七年卒業徳富愛子氏の入會希望に對して現在規定の入會金を納められた上入會許可するの件
9. 講習會につき役員を次の諸氏とす
貴田 鷲尾 水谷 永堀 渡部

昭和九年十一月十九日午後四時半開會

役員會記事

主事會

昭和九年十二月三日午後九時半

一、報告
東京朝日新聞社より關西風水害義金の感謝状來る。

二、協議
1. 母校開校六十周年記念事業につき
2. 記念號發刊につき
(記念號を發刊すれば會報印刷費が不足することとなる故、豫備費より二百圓支出すること)
3. 六十周年記念祝賀會の費用非常に嵩み(會員が豫想以上多數出席したるため)たる様子會として、其儘に忍びざる故千圓丈け寄附するの件
4. 東北地凶作救済について東北振興會へ百圓寄附すること
5. 鳥飼とし子氏(新京在)御夫婦共御病氣の御見舞金として拾圓贈ること

6. 中澤りく氏火災についての内容を調査すること
7. 山崎、堺兩氏に對して謝禮するの件
8. 明治十二年卒業の中村萬壽榮、森田千世子氏廿七年卒業徳富愛子氏の入會希望に對して現在規定の入會金を納められた上入會許可するの件
9. 講習會につき役員を次の諸氏とす
貴田 鷲尾 水谷 永堀 渡部

昭和九年十一月十九日午後四時半開會

評議員會

昭和九年十一月十九日午後五時半開會

昭和九年十二月廿四日(月)後四時より

一、グランドに關する件
竹野グランド委員病氣欠席の爲失作委員より大體の報告あり、即ちかねて内務省へ直接借用方を願出であるも未だ其運びに至らず、府にては其邊一帶三尺位の掘下げに着手しつゝあり如何にすべきか協議の結果、竹野主事お出にならず今直に決議しかねる故承りおく事にし、差詰め委員が東京府にゆき一應事實上グラウンドとして使用しつゝある所を無断にて掘下げ着手の件につき問合せを爲す事になす。

一、會計係より
承認を求め度件につき申出あり、承認する事となる。

1. 會報印刷費につき、臨時に記念號を發刊することとなり、不足のため前回二百圓追加豫算をして支出を決定したるも、郵税を編輯費中に算入せる誤り發見の爲め(二百四十一圓)追加せる分を返すべきこと。

2. 立替支出につき、會計年度初に多額の出費あり經常費の收入不足につき基本金が定期満期となりしを幸それより一時立替支出の事。

3. 豫算經常につきて、明年度より各係にて慎重なる豫算を出し會計にては之を査定するに止る事にしては如何、よろしからんと云ふ事になる。

一、作樂會館新築祝につきて
開館式前に五十圓呈上の事 可決
一、新年懇親會の講演につきて
徳富蘇峰氏御承諾の事報告(市原主事)題は御一任の事、時刻は正二時より

一、報告

1 東北地方凶作救済の爲金百圓寄附の件
2 母校開校六十周年記念祝賀會寄附の件
3 役員慰勞會としてお茶の會を開くの件

二、協議

1 編輯部より記念號發刊につき追加豫算として金貳百圓請求に對する件
2 文科四年會我道子の學資金貸與の件
3 鳥飼とし子病氣見舞金について
4 六十周年記念事業について
事重大なるを以て委員を選び原案を協議すること、委員左の如し。

役員慰勞會

昭和九年十二月三日午後當會館に於て役員慰勞會を催し、本會グラウンド委員・學制調査委員・評議員等としてお骨折下された方々を招待して粗餐を呈し、其勞の萬一を犒つた。當日出席せられたのは左の十四氏である。

會計報告

△會費領收報告
自昭和九年十一月一日(二ヶ月分)至昭和九年十二月廿八日(二ヶ月分)金貳千六拾參圓五拾錢也

△終身會費領收報告
自昭和九年十一月一日(二ヶ月分)至昭和九年十二月廿八日(二ヶ月分)金壹百貳拾參圓也

或は女子教育會の重鎮もあり、其豊富な意見、感想等はテーブルスピーチとなつて華を咲かせ、談論風發、曰く運動精神の眞諦、曰く明日の女性と時局、曰く櫻蔭會の任務と會員の更生、曰く何、曰く何と、歡談盡くる所を知らず卓上主の馳走の極めて貧弱なるに反し客の齎らされし言論の美味佳肴はたゞならぬものがあつた。

招待した方で當日御缺席の方は左の諸氏である。

右の方々の中には或は學界の古老あり

櫻蔭會岡山支部規約

- 一、本支部ハ會員相互ノ親睦ヲ圖リ且ツ本部並ニ母校トノ連絡ヲ保ツヲ以テ目的トス
- 二、事務所ハ二名以上會員ノ在職セル岡山市内各學校ヲ毎年輪番ニ之ニ充ツ
- 三、役員ハ幹事ヲ置キ事務所ニ在職セル會員之ニ當ル
- 四、年二回五月、十一月支部總會ヲ開クヲ例トス
- 但母校先生ノ御來縣ヲ機トシ兼ネテ總會ヲ開クコトアルベシ
- 五、會員ノ負擔金ハ年額壹圓トシ五月納入スルモノトス
- 六、本部總會ニ際シテハ支部代表者ヲ出席セシムルモノトシ其選定ハ當番學校ノ任トス
- 但旅費金四拾圓ハ當支部ノ支辨トス
- 七、幹事ノ引繼ハ十一月支部總會後會計並ニ記録ヲ了シ之ヲ行フモノトス
- 八、學校ノ輪番ハ左ノ通りトナス
岡女、女師、眞備、就實、清心、實習、山陽
- 九、會員ノ異動ニ關シテハ可成速ニ最寄會員ヨリ支部幹事ニ通知スルモノトス
- 十、會員ノ死去ニ際シテハ弔慰金拾圓ヲ供呈スルモノトス

以上

會員異動

○印共濟會員

櫻陰共濟會彙報

會の現状

櫻陰會の事業として組織したる櫻陰共濟會が事務を開始して第十年を迎へました。花々しく目にたちませぬが椽の下の力持となつて、撓まず倦ず櫻陰會のためにコツ／＼と活動して居ります。提供金の大部は櫻陰會館建築のために其の他は櫻陰會事業費としてお役に立つて居り、弔慰金は同窓者七十五人の靈を慰めてまゐりました。左に現在の状況を示します何時でも御入會を歓迎致します。

一、現在會員數

一〇二七

客員

一五

明治卒業

五九〇

同會記事

○役員會

昭和九年度

第七回 昭和九年十一月十三日

○役員會

昭和九年度

第八回 昭和九年十二月十一日

○役員會

昭和九年度

第八回 昭和九年十二月十一日

- 一、十月分庶務會計報告
二、會計監査 十月分
三、協議
一、新入會員承認の件
一、入會勧誘の件

- 一、十一月分庶務會計報告
二、會計監査 十一月分
三、協議
一、新入會員承認の件
一、昭和九年度卒業生へ入會勧誘の件
一、滞納者の處分について
一、年末手當の件

○共濟會入會者氏名

櫻陰高等女學校彙報

創立十周年祝賀式

大正十三年四月、櫻陰會の創設に由りて開校せられし我が櫻陰高等女學校は、本年四月を以て早くも十年を數ふるに至りぬ。因りて十二月八日を期して、折柄竣工したる改築校舎の落成式を兼ね、創立十周年記念祝賀式を舉行せり。

この日朝來初冬の空薄曇り時雨模様さへ窺はれたれど、喜び勇みて登校する生徒に引續き、吉岡女高師校長、本校後援會長阿部中將、櫻陰會役員、櫻陰高等女學校役員、父兄保證人、晁櫻會員(卒業生)、建築關係者等來賓各位の來校臨席せらるゝもの七百名に及び、先年新築の講堂も稍狹隘を感じ、殆ど立錫の餘地もなし。式は豫定の如く午前九時半より左記次第に依りて行はる。

- 一、敬禮(樂器合奏)
一、唱歌(君が代)
一、學校長式辭
一、櫻陰會代表祝辭
一、東京女子高等師範學校長祝辭
一、卒業生代表祝辭
一、在校生徒總代祝辭
一、唱歌(校歌)

宮川學校長は徐ろに壇上に立ち、本日の式辭として、校運愈々隆昌、今日のこの光榮と歡喜に鑑み、今後一層協力的奮勵以てその充實發展を所期すべしと述べ。櫻陰會代表市原壽見氏、東京女

子高等師範學校長吉岡甫氏よりは何れも御懇篤なる祝辭を賜はり、今更に本校を庇護せらるゝ偉大なる力の有難さに感激に堪へざるものあり。卒業生代表宇川和子、在校生總代伊藤惠美子の祝辭は何れもこの式典を祝福し、感謝と慶賀との詞を寄せたり。

次に晁櫻會並に校友會の合同主催にて、開校以來十年間勤続の功勞者

の六職員に對し、謝恩記念品の贈呈あり。晁櫻會より稻並房子、記念品目録を呈し、校友會より中田早苗、謝恩の辭を述べ、宮川校長之に對する謝辭を述べらる。十年の愛育早くもこゝに美しき成果を結びて心からなる今日のこの舉あるに至る。寔に謝辭を送るも送らるゝも唯萬感胸に満ちて言葉足らぬ思あり。

尙式後、山本東次郎氏の狂言、宮城道雄氏の箏曲演奏あり。當代斯道の名家圓熟の妙技は、祝賀式に一層の光彩を添ふるを得たり。

抑も本校創立以來、年と共に鏡意設備の完成を期し、内容の充實を圖り又校地を擴張し、校舎を増改築して以て今日の盛運を致せり。これ固より本校職員關係者 孜々としてその勞を惜まざりしにも因るべけれど、要はひとへに創設者たる櫻陰會の盡力と恩澤とに仰ぐのみ。その敢へて創立したる苦心と努力は言ふも更なり、爾後或は櫻陰會として或は會員個人として、陰に陽に、慈母の子に對する恵を以て守り立てられし結果に外ならざるなり。開校當初、もの皆貧しかりしに比して、今日の内容外觀共に充足したるをみては、唯々今昔の感なき能はず。櫻陰會に對する報恩の念は常に本校關係者の腦裏を去らざる所にして、この機に臨み一言感謝の微意を述べんと欲す。

終に本校十周年式日に際し、金品を寄贈せられし左の諸賢に對し厚く感謝の意を表す。

東京女子高等師範學校彙報

叙任及辭令

任東京女子高等師範學校書記(十二月十一日) 菅沼 隆
任東京女子高等師範學校書記(十二月十一日) 菅沼 隆
任東京女子高等師範學校書記(十二月十一日) 菅沼 隆

●生徒募集 昭和十年四月専攻科第一學年ニ入學セシムベキ生徒ヲ募集ス要項左ノ如シ
一 募集人員 約五名
二 出願期間 昭和十年一月七日ヨリ同二月五日マデ
三 選抜試験 口頭試問及身體検査
選抜試験、口頭試問及身體検査ハ左ノ日割ヲ以テ本校新校舎ニ於テ之ヲ行フ
二月十四日(木)

自前 八、一〇 數學
自前 九、一〇 國語講讀、文法、作文
自正 一、一〇 英語講讀、文法、作文
自後 二、一〇 英語講讀、文法、作文
至後 二、一〇 英語講讀、文法、作文

教育・教授の研究

本會は豫て教育教授に關する研究發表を希望してゐましたところ、本月號に左の二氏の文を掲載し得たことをうれしく存じます今後會員諸氏には盛に御研究を御發表下さいませう御ねがひ申します。

教授の経験

ドルトンプランの實際 穂積 銀

經驗談をとの御註文ですが、無能の私には、これと申す事も有ませんから私が女子大學に奉職中、其附屬高女で自學自習を奨励の爲施行致した、ドルトン法に基きました教授法に就いて、申上げて見ようと存じます。御承知の通り、此法は普通の時間割に據つて一齊に教授せず、生徒各自の希望の時間に、希望の學科を自學自習せしめ、其進度の如きも、伸びる者には何處迄も伸ばし、劣れる者には徐々に進ましめるので有ますから、時間割に強ひられて、いや／＼聽講するとか、折角興が乗つて來た時、定めの時限が來て挫折する、とかいふ損失は免れます。さりとて無制限に自由に振舞はれては、管理上困りますから、或制限の下に、自由の時間に自由の學科を學習せしめて自由に其性能を發揮せしめるといふ趣旨で施行致しました。

方法

一、各學科に學習室を設け、必要の參

考書、辭書、器具等を備付け、又監督上の必要から、各學習室専用の出席表と、進度表とを備付けて置きました。

一、各學習室受持の教師は、生徒の來否に拘はらず、所定の時間は、必ず其室に出張つて居る定めて置きました。

(自學に充てられた時間は午前四時(一齊教授の諸學科には午後の時間があてられました)と限定された)

一、一學期を其長短に従つて、三小期又は四小期に區畫し、一小期を四週間としました。

一、毎小期、教師は豫定案を作製し、主事の檢閲を経て、此れを生徒の數だけ謄寫版で印刷して置きます。

一、豫定案は、教科書に據り、一小期の學習分量を豫定し、第一週は第何課のどこ迄、第二週は何々と分量を定め、其學習の順序、方法、參考資料等をも指定したもので有ります。

一例を申しませば

國語科ならば、先づ通讀して難解の字句をノートに書き抜き、一章の大意を了得し、次に必要なる參考書を繕きて、(例へば理科に關する記事科書筆記を始め適當の參考書、若し地理に關する記事ならば、地理教科書、其ノート地圖を始め適當の地圖等を) 其要領をノートに記録し、語句又は引用の事項等は、和漢の辭書等によつて調査してノートに記し、さて精讀して、確かに其意義を解し、與へられたる章句の解釋をもノートに記し、全文を味讀して、其段落の要旨を記述し、最後に感想を述べよといふ様なもので有ります。

一、最初の小期には各科とも一齊に生徒に渡しますが、第二小期以後は、各生學習に遅速が有りますから、終了するに従つて次小期の分を渡します

但し、或學科にのみ偏しない様に總ての學科を學習し終へぬ者は、次小期に入ると雖渡しません

(級擔任者は、毎週末に各生各學科の進度を調べ、嫌な學科を逃避せぬ様監督します)

一、豫定案を受つた生徒は、成規の時間内で、希望の時間に希望の學習室に至り、單獨にても、數人グループを作つて、共同研究にても、隨意の形で、自習自學致します。自力で解し難い所は、教師に質問し、又は研究の方法の指導を受けます。而して其結果を筆記して、之を教師に提出し、進度表に進度の記入を乞ひて他の學習に移ります。

一、教師は、受取つた筆記をば、必ず其日の中に閲讀し、再研究せしむべき箇所には其旨を記し、誤字、誤謬等を訂正し、(採點は生徒に、批評を下し、(採點は生徒に) 採點して返附します。

一、其日に必ず閱了せねばならぬわけは、生徒は翌日も引續き其科を學習する事がありますから、ノートの返附に差支なき様の用意であります。

本學習法の成果

一、此法によつて、生徒に自學自習の興味と、好學心を喚起した事は、確實でありました。優等者、勉強家に於て一層然りて有りました。

一、中等の者の中で、眞面目の者は、優者の仲間入が出来る迄に、進んだ者が有りました。

一、劣等者の中で、眞面目の者は、優者が一時間でする仕事に、二時間三時間を費し、且質問し、指導を乞ひ受けますから、從來難解と諦めて居た事を、始めて眞に了解するに至り爾來順調の進歩を加へて、嘗ては嫌忌して居た學科を、愛好するに至り中等部に進んだ者も現はれました。

弊害の方面

一、中、下等中の怠惰者に至りますと今日は氣が進まぬ、今は興味も湧かぬ、と教師の眼を偷み、學習を避けて校庭の一隅に遊び暮らす者も、稀には現はれました。

此れが防止策として、各學習室に出席表進度表を備へ置き、毎週末

毎小期末に、級擔任者は、此れを調査して、どの學習室にも出席して居らぬ者には、警告を與へます

各級擔任者も、自己の學習室へ出席不良の者あれば、級擔任者を通じて、警告を與へる事にして、監督致しました。(此等の表は學習時間管してあります)

一、遅鈍で怠惰な者は、とかく數科目が、豫定の小期間に纏らず、次小期に入つても、猶前小期の殘業をなさねばならぬ、といふ者も往々現はれました。

さて、教師側に就いて申しますと、筆記檢閲が頗る重荷でありました。一齊教授の豫め用意した教材を以て、講義する様な樂なものではありません。教師が學力豊富で、精力絶倫であり、生徒數が一組廿人以下位ならば、必ずや好果を挙げられませう、と考へられましたが、私の學校は當時一級五十人が定員でありましたから、一日に廿人も卅人もから、各數頁づつノートを提出されますと、萬事を抛ち、深夜一時、二時迄も夜業を致しても、間に合はぬ事さへ屢ありました。否、地歴受持の先生の如きは、一人で國史・東洋史・西洋史・地理も同様、其上地文をも擔當して居られ、三學年より最上級迄、各級二組宛を此法で教授されましたから、ノート檢閲を成規の如くする事は、到底不可能事でありました。で學期末に至りますと、一週間位は欠勤して、檢閲採點するものは、内證の公然になつて居りました。

かゝる次第でありましたので、時折大學部へ參られる講師方が、私どもの常に賑賑としてノートと頸引して居るのを見られては、ドルトン法といふ者は、先生殺し法といふべきでせぬ、とお笑ひになつたものであります。今も猶續して居られますか、否やは存じません。若し繼續して居られるとすれば、大分改善が加へられたであらうと存じます。

上記の通り何事も、一長一短は免れ

更生家事教育

松尾マキヲ

概要

一 問題の意義

二 問題の由來

1 近代女性の傾向

2 女子の經濟的獨立と學問の弊

3 女子教育界の現状

4 現代世相に鑑み國民教育上特に留意すべきこと(小項目略)

家事教育の眞諦と其更新

一、問題の意義

教育を論ずるに教育を抽象して考察するのは冒險である。實際今日の社會的行詰りは全面的相關々係にある。所謂思想の悪化も、大衆の貧窮も、反生産的現象も、教育の行詰りも、外交の險悪化も、國防の不安も政治の墮落も悉く内部的關係をもつて居る。要するに是は從來の生活法則が日本の特殊の歴史内部に於て行詰つて來た諸相であると共に社會全部の有機的關聯性が

非常に高められて來た證據でもある。それ故に如何なる角度から眺めても改革の正しい歸結は自ら一でなくてはならないといふのが一般の輿論である。

此の意味に於てもすれば、家族愛を失はしめて個人主義的傾向を助長したのは、幕末明治以後の近世西洋物質文化流入浸潤の必然的結果であり、農村子弟をして郷土を忘れしめ都會に走らしめた(所謂サラリーマンの立身出世の爲)ものは都市文化の異狀な發達と魅力及び夫に反比例して深刻化する農村の萎縮疲弊であり、そして此の都市對農村の不健全なバランスを生ぜしめた根元は、幕末以後採用され發達し來つた資本主義經濟に求めなければならぬ。つまり、日本が資本主義經濟の上に著るしく發達するに到つたといふその歴史過程の中に、ともすれば家族愛を忘れしむる様な今日の教育の欠陥弊害を求め得るのである。

私のこゝに言はんとする更生家事教育は、かゝる一般社會情勢から家庭生活を破壊混亂に導かんとする近代女性の傾向を論じそれに伴ふ女子の經濟的獨立と學問の弊及び、それに對する女子教育の立場を明にし、從來の家事科を見直して、そこに

國民教育の名にふさはしい家事教育の生命を見出さうと思ふのである。

二、問題の由來

1. 近代女性の傾向

非常時! 日本の現状社會は正に非常時である。精神の安定と、生活權の擁護、此の二つのは現時の日本が生み出した悲痛なる國民の聲である。かゝる不安のどん底に立入れる時に人々は始めて火花の出る眞剣を生み出すものであるが、我々はそこに女性の優しい強い姿を見出すのである。まことに女性こそ平和の殿堂より漏れる生優しい愛の囁きよりも血みどろの生活裡にこそ其純乎たる力が最も強く發露するものである。失敗と落魄との暗きどん底にさまよひ始め、疲れて行く夫にあかるき光を放ち優しき鞭を打下さるの姿、そこに女性の眞の働きと尊さがある。(以下次略)

母校六十周年に因む集り

母校六十周年祝賀會の日

斯波 安

記念式に地方の方が大勢上京されました。此機會に皆様と意見を交換したいと思つたけれど時間がない。そこで三十日のあの食堂でおでんや、お團子をつまんでいらつしやる中をやつとの事で地方の方を探し出してはお願ひをして左の方々に集つて頂きました。

奈良 越智 キヨ 名古屋 八木 恭子

岡山 西森 元 福岡 西川 せき

大阪 西脇 リカ 同 木村 茂枝

京都 田中 元惠 長崎 大野 靜江

神戸 望月 クニ 同 淺見 他美

同 鶴野 伸 同 松本 シカ

同 山崎 ときの 同 林 とし

同 鹿野 閑 同 屋代 孝子

同 中澤 美代 同 山崎 ミツ

同 長谷川 爲 同 小泉 郁子

同 斯波 安 順序不同

皆々より出る言葉は何れも昨日今日のこの光榮と感謝であつてさて六十年を記念して私達は何をなすべきか、如何に進むべきかを座談的に相談しました。大體左のやうな意見が出ました。

一、女子師範大學の實現はどうしてもさせなくてはならぬ。我々地方の者は中央の方々と一致協力、何でも仰つて頂ければ出来る丈のことをしますと

越智氏はこの實現を速かならしめる爲に特に或努力を試みようと言はれた。

一、一體大學の實現をはかるには、師範大學などと限らないで勅令を改正し女子の一般大學が出来るやうにといふ方が一般の通りがよく新聞など輿論を起すにも都合がよいといふ話もあつた。

一、六十年を期して櫻蔭會は更生しなくてはならぬ。それには女子教育の本山であるだけそれだけ女子

教育に就て研究を遂げ、日本の女子教育は櫻陰會に行つて聴け」といふ位權威あらしめなくてはならぬではないかといふ聲も大きく聞えた。

以上はその主なるものである。何に致せ全國の會員が師範大學問題にせよ、女子教育研究にせよ、常に強き關心を有し、熱烈なる團結の力を以て、會を愛する精神を以て動いて行つたならば成らざることはないであらうと思ふのである。簡單ながら茲にこれ丈の事を記して皆様の御参考に供します。



記念式後の記念

「オヤ波佐谷先生！」「オヤ矢作先生！」おなつかしう御座います！ 目頭があつくなつて聲がつまる。六十周年記念式後、豊島ヶ丘を遙に見渡す母校の廣い運動場で長くも皇后陛下の御覽に供する全校生徒のマスメームの始まらうとする刹那の光景。

波佐谷先生には附屬小學校で私の教生時代教授の實地御指導をうけたものであり矢作先生には附屬高女で御指導をうけましたものでした。爾來三十年

である。簡單ながら茲にこれ丈の事を記して皆様の御参考に供します。

附記 二十九日三十日の兩日は御承知の通り非常に混雑して居り、役員の方はてんでこ舞をして居られたので、集つて頂きたくとも集つていただけず、地方のお方々にも出まかせに行きあたりばつたり申し上げました次第で不都合なことも多かつたと存じます。その邊よろしく御諒察を願ひます。

母校祝賀記念撮影

母校開校六十年に際し、遠い京城支部では去る十月二十八日京城ホテルに於て祝賀會を開いて、母校の隆盛を祝福せられました。そしてその際の記念撮影と支部だよりとを記念號に寄せられました。紙面の都合により記念撮影の方を本號に掲載することになりました。

波佐谷先生には上京の時折お目にかつておりましたけれど、矢作先生には卒業以來始めての事で三十年昔の教生時代に立ちかへつた心地がして、三十年の歲月の中に出来た家の事、子供の事は只々ふしぎの存在でしかない気がした。幸ひの禮服揃ひではあり又一生の思ひ出にも、「先生どうぞあとでお寫真を御一所に」とお願いしたものとゲームの終つたあとには御還御、御奉送、屋上にての會食等々、目ぐるまい混雑、餘興のあとは、みなそれく、クラス會などに引き分けられて式日の十月二十九日にはなつかしい兩先生に



眞寫念記年五十二會三四

二度とはお目にかゝられなかつた。翌三十日の祝賀會終了後の午後三時その前文部省からのお電話で大日本聯合婦人會の用事で文部省社會教育局へ行つてのへり母校の大支關前波佐谷夫人にお出逢ひして「まあ西脇さん、きのふからどんなにかあなたをお探しいましたけれど、それにちつともお逢ひ出来なかつて、けふもお逢ひの園遊會のお食時の時に懸命にお探したのになあ、あなたはどこに行つておられたの？」私もあなたにお逢ひしたかつたのでした。鈴木竹子夫人はかつて夫君莊六閣下が大坂第四師團長として御在任の間、櫻陰會大阪支部長として御活動して頂いたもの、幹事の集會場には師團長官舎の一室を拝借したものでした。御榮轉の時は櫻陰會員だけでなく各種の婦人團體でお名残を惜しんだものでした。それ以來始めての逢瀬「まあ、お互ひにお目出度う御座います。昨日は有り難い御令旨を頂きました。ほんとに光榮の極みで御座いましたのね、お互ひによい母校を持つておましてうれし事だ」と語りながらお寫真をとつて居られるグループがあちらにも、こちらにも、「あ、鈴木さん御一所に思ひ出のお寫真を出て来られたら、あ、矢作先生、御一所にうつて下さい」とそこには大阪の蛭子ツマ子さんが見えたので「あなたに附屬の訓導さんでかつて矢作先生のお嬢様をお教へなされたのでせう。そして鈴木さんとは、大阪で御一所ね、さあ御一所に四人でうつしませう」

波佐谷先生はお探しても見えず大野さんと思へど見えず大阪の誰でもと思へど見えず、思ひきつて四人で御一所にうつつ事となつた。永久の記念、又いつどこでお目にかゝられるやら。

ほんとうにこのやうに母校六十年記念の贈物は、あぐるにつぎぬばかり数々の尊い思い出のばかりで、こんなよい母校を持つ事の有り難さ、こんな立派な同窓の友を持つ事の誇り、それは永遠に消えない感謝であり誇りであります。昭和九年十一月廿四日

母校開校六十年を迎へて

四三會二十五年を迎へて

詩 田 靜 子

母校に於ける六十年記念式並に祝賀の御盛儀に、馳せ参じ其の光榮に浴した、明治四十三年本科卒業生は、二十七名であつた。時恰も御茶の水、巢立つて茲に二十五年此の光輝ある機に四三會(四十二年卒業生の會)も二十五年記念會を、母校祝賀終了後五時より丸之内會館に開催 御列席下さつた先生方は二十一名様、此の御多數の御光來に、一同は感謝と喜悅とで胸が躍る。

先づ野村萬造師の狂言千鳥にて記念の幕は開く。此所暫く捧腹絶倒、やがてやるまいぞ、此の聲が舞臺に消えと聞もなく食堂が開かれ、小山たき氏の開會の辭、次に先生方御總代として野口先生の御挨拶、先生は昔ながらの御元氣で人生百歳を御主張遊ばされ



種々有り難い御鞭撻の御詞を賜はる。今や五十に垂んとする自分等の姿も、全く若くなつて心強い。残る五十年に向つての希望も満身に湧いて来る。今日ちらと白髪染や入歯にいつての會話を、聞いて寂しく思つたが是等も自分等の問題ではない。彼方此方で先生先生と朗らかな聲が聞える和氣堂に充ち「亦不樂耶」の盛況である。

今宵先生方より賜はつた御寄書は、松の齡と榮えゆく四三會唯一の寶物とすべく、又其の御筆蹟により、會員一同は時に春風に和み時に秋風に襟を正し而も蘭の香のそのの如く心は常に高潔に持つべく、實に感銘深きものがあつた。

秋晴れの空に星を仰ぎながら尾をひきつての御歌の如く過ぎたる昔を憶ひしむ秋の別れを九時半の頃であつた。

書 寄 會 三 四

春風秋雨

秋の空に星を仰ぎながら尾をひきつての御歌の如く過ぎたる昔を憶ひしむ秋の別れを九時半の頃であつた。

右寄附者大正五年技藝科今西文員當會館には和室洋室を設けて地方員りますことは既に御承知の通りでありますが、何分設備の不十分な點もあり、西さんが母校六十周年に御上京の折、日間お泊りになりまして今後の宿泊會下の爲に早急重寶な品々を御寄附以下に厚く御禮申上げます。

詩 堤 想 (記念號に寄せられたもの)

木母寺の屋根に静かや秋日ざし
佛顔のなかに菊も樂しや簞籠が
浮き板に菊を育てて船世帯り
おもしも皮船の出入の枝垂菊
薄紅葉噴水高くと又低く
秋風や皮船の出入の枝垂菊
風が煙をさへきり川向ひさぐ
濱名湖にさしかるより時雨けり

會館へ寄附

一、銘仙座布團 五枚
一、竹製衣紋掛 拾本

